

埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース



No. 16

2023. 新年号

ごあいさつ

副院長 中里 良彦

謹んで新春をお祝い申し上げます。連携施設の先生方には日頃より大変お世話になり厚く御礼申し上げます。私は篠塚病院長体制になってより、患者支援センター長を拝命し、入退院支援室、地域医療連携室、医療福祉相談室を担当しております。患者支援センターでは診療だけでなく患者さんの抱える様々な問題にも寄り添う医療を目指していきたい所存です。

また、近年では高齢化が進み複数の疾患を持つ患者さんやどの診療科に紹介したらいいのか判断に迷われるケースも増えていると思います。さらに、当院では紹介状を持たずに直接受診される患者さんも多数いらっしゃいます。このような患者さんの窓口として、昨年10月から病院診療部外来を開始いたしました。内科専門医と専攻医が初期診療を行い、その上で専門的診療が必要な場合には、速やかに専門科に診療を引き継ぎます。病院診療部は原則として、診療科や医師指定のない初診患者さんの診療を行います。病院診療部宛てに紹介して頂いてもかまいません。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

※中里副院長（写真中央）と患者支援センタースタッフ

Contents

ご紹介	2
小児科「小児期の健康教育が成人後の生活習慣病を予防する」	
診療科のご紹介	3
感染症科・感染制御科 形成外科・美容外科	
医師のご紹介	
眼科	4
歯科・口腔外科	4
病院長からのメッセージ	5
看護部から	5
救急センター・中毒センターの紹介	
薬剤部から	6
睡眠薬フォーミュラリの紹介	
第43回埼玉医科大学・連携施設懇談会	6
提携医療機関から	
川鶴プラザクリニック	7
鶴ヶ島内科クリニック	7



小児期の健康教育が成人後の生活習慣病を予防する

小児科では、今こどもたちの目の前にある、時に生命を脅かす病気に対処するだけでなく、乳幼児検診や学校検診でピックアップされた問題に早期介入することや、青年期に向けた健全な生活習慣の獲得など予防医療にも努めています。

近年、欧米の疫学研究から、胎児期に低栄養に曝された集団では、出生後の栄養状態とのミスマッチにより成人後に肥満、高血圧、耐糖能異常などの生活習慣病を高率に発症することが示されています。これらの結果から、胎児期および小児期の生活習慣が成人の生活習慣病の発症に重要であると考えられ、「成人病胎児期発症説 Developmental Origins of Health and Disease (DOHaD) 説」という概念が提唱されました。DOHaD説によれば、胎児期から出生後早期の環境に基づき予測された今後の成育環境に適応するため、体質変化がプログラムされますが、実際の生活環境があらかじめ予測された環境と大きく異なる場合には、将来の生活習慣病の発症リスクが高まるとされています。DOHaD説がどこまで疾病リスクに関与するかについては議論の余地がありますが、小児期からバランスの良い栄養状態や体型の保持を心掛け、ストレスの低減に努めるなどの健康教育が、将来の生活習慣病の発症リスクを低減させる可能性を有しています。

また、DOHaD説を周産期にさかのぼると、胎児の栄養状態を左右する妊婦の栄養状態が問題になります。ダイエット志向の若い女性が多いわが国の事情から、低栄養妊婦は近年増加の一途をたどり、出生時体重の低下傾向がすすんでいます。世界的にみても、わが国の低出生体重児（2500g未満）の頻度は極めて高く、次世代の疾病リスクが高まることが危惧されます。そのため、胎生期に低栄養に曝された過去を有する小児に対する早期介入だけでなく、思春期

から青年期の女性の健康教育も小児科医の重要な役割と考えています。

医療連携いただく先生方へ

こどもたちにシームレスな医療を提供するため、こどもセンターを組織し診療しています。一般的な急性疾患のほか、各領域の専門医が外来を行っています。

COVID-19流行に伴い小児の発熱外来を設け、月曜から土曜日の午前中に診療をしています。患者様を長時間お待たせしないためにも、ご紹介時には電話でご連絡ください。今後とも地域の先生方と連携して診療してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

小児科 教授 秋岡 祐子
外来☎：049-276-1283



私の専門は小児腎臓病です。診療にエコーは欠かせません。



前日の入院患者さんについて、毎朝の検討会を開いています。

● **感染症科・感染制御科 教授 前崎 繁文 (マエサキ シゲフミ)**

当科は感染専門医3名で感染症全般についての診療を行っています。当科はエボラ出血熱など1類感染症の診療が可能な埼玉県下唯一の医療機関として第1種感染症指定医療機関としての診療を行っています。今回の新型コロナウイルス感染症では第1波から県下の多くの患者さんを受け入れ治療にあたってきました。現在の第8波まで、1,000人以上の新型コロナウイルス感染症の患者さんの入院治療に携わってきました。

また、当科はエイズ診療拠点病院として全県からHIV感染症の患者さんのご紹介を受けております。現在は延べ300名近くのHIV感染症患者さんの診療

を行っております。HIV感染症はいまでは有効な薬剤が開発され、慢性の感染症として外来にて多くの患者さん診療を行っています。

そのほかにも、薬剤耐性菌や真菌感染症、マラリアやデング熱などの輸入感染症などの診療を行っています。また、南米などで見られるシャーガス病の検査を行うことが可能で、日本全国から検査を希望される患者さんを受け入れています。

感染症は多くの内科疾患と異なり、やや特殊な疾患ですが、専門医も少なく、相談する場所も限れておりますので、何かご不明のことがありましたら、いつでもお気軽にご相談ください。



AST会議風景

診療部長のご挨拶

感染症専門医が在籍する医療機関は全国でも限られており、今回の新型コロナウイルス感染症の流行でもその実態が浮き彫りにされました。当科には複数の感染症専門医が在籍し、感染症に関する高度な診療が可能です。ここ数年は新型コロナウイルス感染症を中心でしたが、今後はそれ以外の感染症の診療も充実させていくつもりです。

感染症科・感染制御科 診療部長 前崎 繁文
外来 ☎ : 049-276-2034

診療科のご紹介

● **形成外科・美容外科 教授 市岡 滋 (イチオカ シゲル)**

形成外科は眼科、耳鼻科、泌尿器科のように臓器名が入っていないため、何をする診療科か理解されにくい分野です。

学会では「身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによって、生活の質"Quality of Life"の向上に貢献する、外科系の専門領域」と定義しています。

対象とする疾患は口唇口蓋裂、合指・多指症、小耳症などの先天疾患、皮膚皮下腫瘍、顔面外傷、熱傷、眼瞼下垂、瘢痕ケロイドなど多岐に渡ります。当科

では形成外科全般を扱いますが、とくに専門としていっているのは一筋縄では治らない難治性創傷です。

具体的には褥瘡、糖尿病性足潰瘍、重症下肢虚血、壊死性筋膜炎、骨髄炎などです。これらの疾患についてDPCデータで常に全国トップクラスの症例数を有しています。患者は創傷局所以外にも多くの問題を抱えており多職種との協働を要しますが、当院は先駆的にチーム医療を確立しています。

局所陰圧閉鎖療法や超音波デブリードマン装置など最新鋭のデバイスを駆使しながら、豊富な臨床経験に基づく熟練した技術で治療を達成します。

診療部長のご挨拶

当大学に赴任したのが1998年で25年目を迎えます。これまで地域の先生方はもちろん各地から多数の患者紹介とご支援を頂き、全国の大学病院でも有数の症例数と規模を誇る形成外科となっています。スタッフの成長も著しく、専門領域のエキスパートとして業界をけん引しています。お困りの患者さんをぜひご紹介下さい。

形成外科・美容外科 診療部長 市岡 滋
外来 ☎ : 049-276-1288



術中風景：(向かって左)石川洋平医師、(中央)市岡滋教授、(右)栗原健医局長

● **眼科 准教授 蒔田 潤 (マキタ ジュン)**

いつもたくさんのご紹介を頂きありがとうございます。

眼科ではこの10年くらいの間に、定期的に眼球に抗体製剤の注射をする治療が大変増えています。薬剤の種類も増えました。適応疾患も多く、眼内の新生血管等からの滲出病変が対象です。このうち加齢黄斑変性と糖尿病黄斑症に対して当科独自の治療プロトコルを作成しました。数年に渡り、定期的に注射を行う治療ですので、注射が可能な紹介元へは導入終了後に逆紹介し、注射治療の継続をお願いすることで、患者が戻ってこないとか経過不明と



いったご心配を無くそうと考えています。悪化や計画通りに改善しない際にはまたご紹介頂ければ再検査や修

正治療の上でお戻し致します。患者さんにとってもいつものクリニックで大学病院と同じ治療が短い待ち時間で受けられ、治療からの脱落を防ぐ効果もあると思います。注射治療への参加をご希望にならない紹介元へはご迷惑のないようこちらで治療にあたりますが、注射間隔が長く保てそうな場合は注射の合間での観察をお願いすることもあります。ご希望の治療連携形式を紹介状にご記載頂けますようお願い致します。

手術目的のご紹介では、説明用ロボットを活用して、予約時間から、また検査後の待ち時間短縮の工夫をしております。



医師のご紹介

● **歯科・口腔外科 准教授 伊藤 耕 (イトウ コウ)**

近隣地域の医療機関の皆様、平素より大変お世話になっております。私は2020年4月より埼玉医科大学歯科・口腔外科に着任いたしました。2000年に大学を卒業後、神奈川県、千葉県、長野県の病院歯科や歯科大学に勤務し地域医療に携わって参りました。



埼玉医科大学の口腔外科は医科・歯科が同施設にあることから、全身を視野にいれて歯科治療が行えるのが最大の利点と言えます。先天疾患や高齢化に

伴った全身的な疾患により、開業歯科医院では処置が困難な患者さんもいらっしゃいます。近年では骨吸収阻害薬の投与に関連した薬剤関連性顎骨壊死も問題になっておりますが、当科では多くの薬剤関連性顎骨壊死症例の治療を行っております。また、私はスポーツや転倒等に伴った顔面骨骨折の治療、反対咬合（受け口）など顎変形症の手術や顎関節症に対する手術的加療も専門に行っております。先生方の診療の中で、加療に困っている症例や、医科・歯科の連携治療が必要な症例などございましたら是非当院にご紹介いただければ幸いです。微力ではございますが、医局員一同、患者さんのお役に立てるよう努めさせていただきます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

新任教授紹介

2022年12月から消化管内科 都築 義和先生が教授に就任されました。

● 病院長からのメッセージ

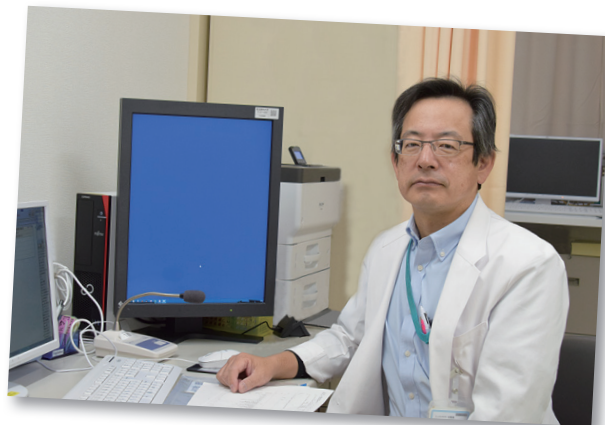
眼科 蒔田潤先生

当院眼科には以前から非常に多くの患者さんを紹介しておりますが、蒔田潤准教授は眼科診療の中心的な医師として頑張っています。従来からの診断治療に加えて先進的な治療、当院独自の治療方法等には積極的に取り組んでおられ、今後益々活躍を期待しています。病院全体においても、よりスムーズな診療の取り組みとして初診患者さんの電話予約やカルナシステムを導入しておりますので、ご活用下さい。蒔田先生は眼科診療以外にも病院内において色々な役割を担っており、今後の活躍を期待しています。

歯科・口腔外科 伊藤耕先生

歯科・口腔外科伊藤准教授は、これまでの豊富な診療経験等から、当院赴任後この領域において積極的な診療を継続してきております。当院においては、手術はもとより大学病院ならではの歯科口腔外科領

域の診断治療を目指しているところでありますが、伊藤先生はその中心的役割を担っており、今後益々活躍が期待される先生です。医科歯科の連携や病院業務にも前向きであり、今後とも宜しくお願い致します。



● 看護部から

救急センター、中毒センターの紹介

埼玉医科大学病院は、二次救急病院として24時間体制で救急搬送や来院する全ての患者様の診療に対応しています。緊急手術・内視鏡治療・急性薬物中毒等の専門的な対応も行なっています。

救急看護とは、突発的な外傷、急性疾患、慢性疾患の急性増悪等の様々な状況によって、救急処置が必要な対象に実施される看護活動です。救急処置を中心とした初期治療で、性別や年齢、重症度を問うことはありません。発症・受傷時から社会復帰するまでをカバーする幅広い領域であり、迅速な判断と行動が求められます。

一刻を争う場面も多く、緊張感のある部署ですが、危機的状態に陥った患者・家族の心情に配慮し適切な医療を提供するため、他職種を含めたチームで連携を密にし、患者様に寄り添った看護を提

供できるよう日々行動しています。当部署には、経験豊かなスタッフが多く、蘇生トレーニングコース（ICLS）・外傷病院前救護（JPTEC）のインストラクター、災害派遣医療チーム（DMAT）看護師、救急看護認定看護師等が所属しており、日頃から自己研鑽に励み質の担保を図っています。また、院内急変対応チーム（RRT）に所属するスタッフもおおり、病院全体の救急医療に携わり活動しています。

救急センターが掲げている『24時間365日地域の救急患者の受け入れを断らない』をモットーに、地域の皆様に貢献できるように努力していきます。

五十嵐 弘明（救急看護認定看護師）



救急センター、中毒センタースタッフ



● 薬剤部から

睡眠薬フォーミュラリのご紹介

睡眠薬は主に不眠に悩む患者さんに処方されますが、その中でも、ベンゾジアゼピン（BZ）受容体作動薬は、依存や認知機能低下、転倒リスク向上等の様々な問題が報告されています。特に日本の消費量は他国に比べて非常に多く社会問題となっています。当院では、これまで睡眠薬の処方について統一した基準や方針がなく、各診療科の医師の裁量に委ねられていました。こうした背景を踏まえ、BZ受容体作動薬を含む睡眠薬の適正使用推進を目的としたフォーミュラリを作成しました。フォーミュラリとは「疾患の診断、予防、治療や健康増進に対して、医師を始めとする薬剤師・他の医療従事者による臨床的な判断を表すために必要な、継続的にアップデートされる医薬品のリストと関連情報」と定義され、作成にあたり、当院神経精神科・心療内科の松尾教授主導のもと、薬剤師、看護師、医療事務員を含めた多職種協働のワーキンググループを立ち上げ検討を重ねました。その結果、「一般成人」に対しては、第一推奨薬に

デエビゴ[®]錠、第二推奨薬にエスゾピクロン錠、第三推奨薬にロゼレム[®]錠もしくはゾルピデム錠、「高齢者またはせん妄リスク群」に対しては、第一推奨薬にデエビゴ[®]錠、第二推奨薬にロゼレム[®]錠、第三推奨薬にエスゾピクロン錠を制定致しました。今後、導入効果を評価していくと共に、他施設の参考となり、より多くの患者さんが安全・安心で有効な治療を受けられることが望まれます。



当院神経精神科・心療内科松尾教授とフォーミュラリ作成に関わった薬剤部員

● 第43回埼玉医科大学・連携施設懇談会を開催しました

10月12日、第43回埼玉医科大学・連携施設懇談会をハイブリッド方式で開催いたしました。

学術講演では、「増加する炎症性腸疾患一病態と最新治療」として、当院消化管内科教授 都築義和先生にご講演をいただきました。「炎症性腸疾患、正しく理解を、薬が大きく進歩、ストレスは大敵」などの内容を含め潰瘍性大腸炎（UC）とクローン病（CD）を解り易く講演されました。（写真1）

特別講演では、仁邦法律事務所 所長・弁護士 桑原博道先生をお迎えし「2022年4月施行「改正個人情報保護法」の概要～病院・クリニックが抑えておくべきポイント～」のテーマでご講演をいただきました。個人情報保護法の適用範囲について、漏えい等の対応、電子カルテの開示方法等の医療機関における対応ポイントを解説して頂きました。（写真2）



写真1



写真2

埼玉医科大学・連携施設懇談会は、今回で43回を迎え、ハイブリッド方式での開催でしたが、328名の先生方に参加して頂き盛大に開催することが出来ました。これも先生方のお力添えと感謝致しております。本懇談会が先生方との連携を一層深める機会となり、医療環境（感染状況等）が厳しい中で変化に対応できる医療連携の構築に貢献できれば幸いです。

今後も連携施設懇談会にご協力戴きますようお願い申し上げます。末筆ですが、先生方の益々のご健勝とご活躍を祈念致します。

埼玉医科大学・連携施設懇談会 事務局

提携医療機関から

川鶴プラザクリニック(川越市)

当院は糖尿病、高血圧、脂質代謝異常、甲状腺疾患を専門にしていますが、呼吸器、胃腸疾患も含め内科全般を幅広く診療しております。

かかりつけ医でありますので、様々な主訴で来られ、急を要する患者、重症患者様が多く、それに対応するため院内で血算、生化学、甲状腺ホルモン、COVID PCR、感染症関連などのキット、エコー、胃カメラなど多数の検査機器を備えています。日頃より、貴院で多数の緊急患者様を受け入れて頂き大変感謝しております。

貴院のカルナシステムは非常に有益です。緊急患者紹介においても、双方がスムーズ、効率化できるさらなる進化したシステムが出来ることを願っています。



院長：北濱 真司

医療機関情報

外来診療時間：午前 8：30～11：45

午後 15：00～17：45

休診日：木曜・日曜・祝祭日

ホームページ：<https://kawatsuru-plaza-clinic.jp>



鶴ヶ島内科クリニック(川越市)

当院は2017年に川越市に開業いたしました。糖尿病や高血圧、脂質異常症等の生活習慣病を中心に診療しております。十分な診療時間を確保しつつ待ち時間の短縮を図るため、開院当初から予約制を敷いております。当院ではできない超音波検査や専門医の受診が必要な際に貴院のカルナシステムを利用させて頂いております。その場で予約状況が確認でき、予約を確定することができる為、患者様からの評価も高いです。今後もかかりつけ医として地域医療に貢献してまいりたいと考えており、引き続き貴院との連携が重要であるとと考えております。

院長：池袋 香織



医療機関情報

外来診療時間：午前 9：00～12：00

午後 15：00～18：00

予約制としております。

休診日：水曜日・土曜日午後・日曜日・祝日

ホームページ：<https://www.tsurugashima-naika.com/>



埼玉医科大学 建学の理念

- 第1. 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きる
すぐれた実地臨床医家の育成
- 第2. 自らが考え、求め、努め、以て自らの成長
を主体的に開展し得る人間の育成
- 第3. 師弟同行の学風の育成

埼玉医科大学の期待する医療人像

- 高い倫理観と人間性の涵養
- 国際水準の医学・医療の実践
- 社会的視点に立った調和と協力

埼玉医科大学病院の基本理念

当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心して質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

患者さんの権利

当院は、すべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心して質の高い医療を受ける権利
3. ご自分の希望を述べる権利
4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

小児患者さんの権利

当院は、すべての小児の患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. こどもが最善の治療を受けて生きる権利
2. こどもが暴力から守られる権利
3. こどもが能力を十分に伸ばせるような医療を受ける権利
4. こどもが自分の診療について自由に意見を述べる権利

連携医療機関からの各種問い合わせ

救急センター : 049-276-1199
地域医療連携室 : 049-276-1876
予約センター(外来初診予約) : 049-276-1179

医療福祉相談室(退院調整) : 049-276-2119
入退院・患者支援室 : 049-276-1484
セカンドオピニオン受付 : 049-276-1121



埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース(16号)

発行 : 埼玉医科大学病院
発行責任者 : 篠塚 望
編集 : 埼玉医科大学病院広報戦略委員会・地域医療連携室
編集責任者 : 池園 哲郎・中里 良彦
電話 : 049-276-1876 地域医療連携室
住所 : 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38
発行日 : 2023年1月1日

※掲載している写真等は、関係者の同意を得ています。